

名古屋市立女子短大 佐野 恂子

近来靴下と云えば、季節・性別・年齢を問わず、ナイロン繊維のものが使用され、その耐久性と外観美が賞用されている。しかし、これを衛生的立場から考える時、特に日本の夏季の如き高温高湿状態では、その通気性・吸湿性等が、しばしば問題にされるところである。

私は、実際にこれをはいた場合の皮膚表面温並びに衣服内湿度を測定し、通気性・吸湿性と関連づけて考察した。

実験に使用した靴下の種類は、男子夏季用として市販されている (A)ナイロン・レーヨン交編(ストレッチポーラ) (B)クリンプナイロン(薄手)パーマケム加工 (C) クリンプナイロン(厚手)パーマケム加工 (D) 純綿(爪先・踵ナイロン補強) (E) ウーリーナイロン 以上五種と (F)婦人用トリコット編ナイロンソックスの合計六種で、色は前五種は全部うすいグレーとし、Fのみは白である。

通気性は島津の定圧式透気度試験機にて測定の結果 (1)F, (2)B, (3)C, (4)D, (5)A, (6)Eの順となった。皮膚表面温・衣服内湿度は、被検者3名に上記の靴下をはかせ、無風安静時、無風運動時、有風安静時の三回にわたり、前者は、銅コンスタンタン熱電対・ポテンシオメーターにて測定したが、著しい差異は認められなかった。後者は、ミニマ鋭感湿度計にて測定、通気性良好なものは、運動時に、湿度の増加率の少いことが、認められた。